

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・百貨店を核とする大型再開発ビルがオープンし、その効果で来客数が急増した。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・客単価は変わらないが、来客数が安定的に増加している。前年との比較では1日当たり最多来客数は変わらないが、最少来客数は格段に増加しており、いわゆる「悪い日」が無くなっている。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・大型テレビの売れ筋が37型から42型にシフトしている。また、冷蔵庫も450L以上の大型タイプの売行きが、モデルチェンジ前で買やすい価格帯になったことなどから好調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・団体旅行を中心に好調に推移しており、売上は前年比で70%増加した。春先の地震の影響から脱却しつつある。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・建物の地震に対する施工方法や構造を説明することにより、ようやく客の安心を得られるようになってきた。また、地震時の住宅倒壊の不安感から足が途絶えていた客が展示場に戻ってきた。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・百貨店を核店舗とする大型再開発ビルがオープンしたため、多くの人出はあったが、周辺の個店ではまだ影響が見られない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・来客数や書籍の売れ筋分野などで大きな変化はない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・暑い日が続いたため、食品でも秋物商品が出遅れた。飲料は動いたが、新商品の菓子や高い野菜が動かず、買上点数が落ち込んだ。加えて、ガソリン価格高騰の影響で、客の買物態度は厳しい。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・残暑の影響からか、来客数は減少しているが、客単価は変わらない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は前年に比べ若干増加しているが、客単価は逆に低下している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・残暑が厳しかったため、飲料、アイスなどが前年を大幅に上回った。しかし、例年であれば好調となるおにぎりやパンなどの中食が大変苦戦した。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・残暑の影響もあり、エアコンの売上は前月同様に好調で、前年比25%増となったが、パソコンの売行きは依然として陰りがあり、全体としてはほぼ前年並みであった。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・中古車部門、修理部門は前年を上回っているが、主力の車両販売は前年を維持するのが精一杯である。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）		単価の動き	・過当競争のため、利幅でコストを回収できない状態が続いている。	
高級レストラン（スタッフ）		販売量の動き	・9月は土・日曜日、祝日が12日間もあったが、料亭部門、レストラン部門ともに大苦戦であった。能登半島地震から半年になるが、前年の売上を毎月下回っている。今月から隣県や中京地区の旅行エージェントへの営業を再開したが、反応は決して良くない。	
一般レストラン（スタッフ）		来客数の動き	・3か月前は駅前にオープンした飲食ゾーンなどの影響により落ち込んでいたが、現状は前年比較で下回っているものの落ち着いてきており、横ばい状態である。	
観光型旅館（スタッフ）		来客数の動き	・9月における予約保有は大きく悪化している。また直前の申込が減少している。 ・1旅館だけでなく温泉地全体が底上げになって初めて能登半島地震の風評被害からの脱却ができたといえるが、現在はそこまで至っていない。	
タクシー運転手		販売量の動き	・大規模な野外コンサートが行われたため、その準備などで大きなタクシー需要があった。しかし、夜の繁華街は全く振るわなかった。	

	通信会社（役員）	販売量の動き	・ケーブルテレビの加入促進キャンペーンを実施したが、新規加入の低調化傾向は相変わらずである。多チャンネルテレビ放送の加入世帯が約4割に達し、飽和状態に近いとの見方もあるが、全国的には更に高い加入率の同業者もあり、やはり区域外再送信問題の影響が大きいとみている。	
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・本来であれば販売数が極端に落ちる月であるが、店独自のキャンペーン・イベントの実施により、前月同様の販売数を維持している。	
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・能登半島地震等の風評被害の影響もあり、利用者は3か月前と同様に、前年比で1割近い減少が続いている。	
	その他レジャー施設（職員）	単価の動き	・9月前半まで残暑が続いたことや3連休が2度あったことから来客数、売上とも伸びた。しかし、客単価は依然として低下傾向にある。	
	住宅販売会社（総務担当）	単価の動き	・契約物件は低価格商品に偏っているため、利益水準が回復せず、原材料のコスト増を吸収できない。	
やや悪くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	お客様の様子	・すし店、料理店など、ほとんどの取引先で来客数の減少が止まらない。観光客だけでなく、地元客の動きも悪いという話がよく聞かれる。	
	百貨店（売場主任）	それ以外	・天候の不順や、日本ならではの四季が不安定なことなどが消費に悪影響を与えている。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・暑い日が続いたため、秋物ジャケットや裏地の付いたパンツ類が苦戦し、ミセスでは前年の94%となった。ライバル店とバッティングしたヤングブランドは同74%と振るわなかった。	
	百貨店（売場担当）	来客数の動き	・月初めの来客数は良かったが、中旬以降の客足がかなり落ち込んだため、販売量も減少している。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・高い気温が続いたため秋物衣料が動かず、早くも秋のセールに入った。単価も低く、利益も取れない状況である。	
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・秋物商品を全面的に打ち出したが、厳しい残暑で夏物の「延長戦」となった。秋物が伸びなかったため、売上は前年に比べ減少した。	
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・9月に入ってから暑い日が続く、ジャケットやブルゾンなど単価の高い上物の販売が伸びなかった。	
	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・個人ではなく、家族単位の来店が増えてきた。客は実用的で経済性を重視した選び方をしている。また意思決定に時間が掛かり、商談の長期化傾向が見られる。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・例年どおり、月初めは盆踊りの大イベントのためホテルは満杯となり、出張者の来店もなかった。また、3連休が2度もあり、客も社内旅行などのため来店せず、店内は静かな毎日であった。月末に数回の貸切りがあったため、辛うじて最悪の状態は免れた。	
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・レストラン、宴会、宿泊の来客数がいずれも前年を下回り、減収となっている。レストラン利用客は4か月連続で減少しており、回復の兆しが見られない。
	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・業務出張の取扱比率が高まり、観光旅行の取扱が減少している。	
悪くなっている	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・全体的に来客数が非常に落ち込んでいる。イベントへの集客はあるものの、店内の買物へ波及するシャワー効果が出ていない。	
	住関連専門店（店長）	販売量の動き	・9月になっても残暑が厳しいため、秋・冬の季節商材の販売が低下している。	
	パチンコ店（店員）	販売量の動き	・人気台を撤去したため売上が大幅に減少している。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・既存製品の好調な受注に加え、新製品の受注も多い。海外では携帯電話・パソコン市場、国内ではゲーム機市場が好調に推移している。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・残暑が非常に厳しかったため、秋物商品の動きが特に悪い。
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内の受注は伸びていないが、欧州では引き続き好調な動きを維持している。	

	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月間の眼鏡受注量は若干の増減はあるものの、ほぼ安定した状態で推移している。	
	建設業（総務担当）	それ以外	・6月に行われた建築基準法の一部改正により、建築確認済書の交付が従来より大幅に遅れている。このため、工事受注が内定しても建築確認申請に時間が掛かり、着工が先送りになることから、工事完成高に影響が出る。	
	輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・原油等の値下がりが見込めず、利益がなかなか上がらない状況が続いている。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・折込広告業界では企業による温度差は若干あるものの、全体としては前年比較で横ばいである。	
	司法書士	取引先の様子	・中堅企業では負債が大きくなるうちに解散、事業終了とする案件が多い一方で、起業の相談、案件もある。	
	やや悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・当社では規格変更を主とした値上げを9月から実施したが、荷動きは悪く、また当初の計画ほど効果が上がっていない。
	悪くなっている	建設業（経営者）	競争相手の様子	・公共工事では予定価格の30%、40%引きという低価格入札が日常茶飯事となっているが、低入札価格調査が実施されても契約されないケースは無く、採算を度外視したダンピングの流れに歯止めが掛からない。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣の需要件数は増加していない。技術を持った求職者が少ないため、企業ニーズに対応できない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・一部の金融機関では従来の派遣から紹介予定派遣へ切り替える動きが見られる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・パチンコなどの遊技業の広告申込件数は減少傾向が目立つ。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月以降、有効求人倍率は上昇しており、新規求人も月により増減はあるものの、全体的には増加傾向で推移している。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・企業からの求人が長期化している。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・中小企業で事業縮小や倒産が相次いだ。なお、業種的には偏りがなく、様々であった。
悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は前年に比べ3割減少している。	